

## 1 総括の方法

21世紀兵庫長期ビジョン（2001年策定、2011年改訂）が描く社会像の評価指標である「兵庫のゆたかさ指標」県民意識調査を県内に居住する満20歳以上の男女を対象に2002年から毎年調査を実施してきた。現行ビジョン（阪神市民文化社会ビジョン）について、現行ビジョン策定時に県民が描いていたビジョン（将来像）と実際の社会像を次のとおり比較し、その差に着目した。

### ①管内での比較

各調査項目について「そう思う」「まあそう思う」を選択した回答者の割合について、2013年～2016年の4ヶ年平均と2017年～2020年の4ヶ年平均を比較し、「増加」又は「おおむね横ばい」である項目を主にピックアップした。

### ②他地域との比較

ピックアップした項目について、県内他地域との順位の平均値や、全県の割合と比較した。

## 2 総括

### （1）総合評価

現行ビジョンの総合的な評価をするために位置づけている「住んでいる地域に愛着や誇りを感じる人の割合」「全体として今の生活に満足している人の割合」「住んでいる地域にこれからも住み続けたい人の割合」の3項目について「そう思う」「まあそう思う」を選択した阪神地域の回答者の割合は、他地域と比べておおむね上位で推移してきた（平均順位2位台～3位台）。また、いずれの項目の割合も、全県を上回っていた。

### （2）行動目標

#### ○行動目標1：多様で個性的なライフスタイルを育むことができる社会をつくる

「目的を持って学んでいるものがある」「芸術文化に接する機会がある」「地域活動に参加する、してみたい」「住んでいる地域のことに関心を持つ」人の割合は阪神南、阪神北いずれの地域でも増加しており、地域活動への関心の高まりがうかがえ、ビジョンの推進状況の達成度合いは高くなっている。

#### ○行動目標2：自律と協働による温かいコミュニティをつくる

災害に対する自主的に備える人の割合は高くなっている。子育てがしやすいと感じる人の割合や高齢者が暮らしやすいと思う人の割合は減少傾向にあるが、高順位で推移している。

#### ○行動目標3：自然と豊かに調和した安全・快適な都市環境を創造する

住んでいる地域のまち並みの満足度は上昇している。特に阪神北地域では地域の自然環境が守られていると感じる人の割合が伸びており、シンボルプロジェクト『北摂里山博物館構想』の推進の影響が考えられる。交通の利便性については、高順位で推移している。

#### ○行動目標4：豊かさにとぎわいを創出する新たな阪神経済を展開する

「地域の企業に活気が感じられると思う」「自慢したい地域の宝があると感じる」人の割合は阪神南、阪神北ともに上昇している。新たに事業を始めやすいと思う人の割合は減少しているが、高順位で推移している。